

洗足学園音楽大学卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学のディプロマ・ポリシーは次の通りです。

大学

本学は所定の在学年数を満たし、本学が定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学修成果を修め、その証として、所定の単位を修得し卒業した者を、建学の精神を体現し、十分な専門的知識や技能及び汎用的能力を身に付けた人間性豊かな人材と認め、学士（音楽）の学位を授与する。

音楽学部

- （１）自らの専門分野に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。（専門性、専門実技）
- （２）社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感することができる。（多様性の尊重）
- （３）自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。（協働する力）
- （４）自らの専門分野である音楽を通して、社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。（社会貢献・実践的態度）
- （５）論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。（論理的思考力・問題解決力）

作曲コース

自らの専門分野である作曲に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・バロックや古典をはじめ、近代・現代の作曲法に精通し、その伝統を継承するとともに、独自の作品を生み出すことができる。
- ・楽器法やオーケストレーションを修得し、さまざまな編成での作曲や編曲において、楽譜を制作することができる。
- ・ジャズや民族音楽など幅広いジャンルに興味を持ち、社会において訴求力のある作品を提供することができる。

音楽・音響デザインコース

自らの専門分野である音楽制作に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・音楽理論や専門知識を体系的に理解し、創作において適切に活用することができる。
- ・コンピューター・リテラシーを身に付け、制作に必要な編集ができる。
- ・音響処理技術を修得し、独創性のある音楽を構成することができる。

ピアノコース

自らの専門分野であるピアノに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・音楽の歴史について体系的に理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・ピアノ奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現ができる。
- ・専門的で多角的な音楽理論の知識を身に付け、活用することができる。

管楽器コース

自らの専門分野である管楽器に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・管楽器の歴史を体系的に理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・管楽器奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現ができる。
- ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。

弦楽器コース

自らの専門分野である弦楽器に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器の歴史を体系的に理解し、様式に沿った演奏ができる。 ・弦楽器奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現ができる。 ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。 |
|--|

打楽器コース

自らの専門分野である打楽器に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・各種打楽器の基礎的な奏法、そこから発展する技術を修得し、打楽器を通して音楽表現ができる。 ・音楽の歴史、音楽理論などの専門的な知識を修得している。 ・独奏、アンサンブルやオーケストラなどの演奏形態に適切に対応できる。 |
|---|

電子オルガンコース

自らの専門分野である電子オルガンに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。
--

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・編曲や創作を行い、自ら演奏ができる。 ・様々なジャンルを理解し、様式に沿った演奏ができる。 ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。 |
|---|

ジャズコース

自らの専門分野であるジャズに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・演奏技術を修得し、自由度を持った即興演奏ができる。 ・創造的なアイデアを含む音楽をつくることができる。 ・演奏の場において、刻々と変化する音楽の流れに柔軟に対応することができる。 |
|--|

現代邦楽コース

自らの専門分野である邦楽及び邦楽器に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・古典、現代邦楽、現代作品など、広範な様式に関心を持ち、それぞれに相応しい演奏表現を修得している。
- ・独奏の技術と音楽性を高めると共に、アンサンブルにおいて、協調性を発揮することができる。
- ・日本の文化における邦楽及び邦楽器の存在意義を認識し、その魅力を国内はもとより世界に発信する気概を身に付けている。

ロック&ポップスコース

自らの専門分野であるロック&ポップスに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・多種多様な音楽に触れ、幅広い音楽観を身に付けている。
- ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。
- ・現在進行形の音楽産業に対して、常に新しい発想を持って柔軟に対応できる。

声楽コース

自らの専門分野である声楽に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・全身を楽器として響かせる西洋クラシック音楽の発声法で、作品に対する思いを自在に表現する技術を修得している。
- ・オペラ、歌曲、宗教曲について、歴史的背景に関する知識を有し、時代・地域・言語の違いによるそれぞれの表現法を修得している。
- ・西洋クラシック音楽の基本の発声法や知識を元に、それ以外のジャンルの音楽や朗読など、声を使う様々な場に対応することができる。

ミュージカルコース

自らの専門分野であるミュージカルに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・多種多様なジャンルのミュージカル作品を深く理解し演じることができる。
- ・ベルティング唱法、ベルカント唱法を修得することにより、多岐にわたる舞台上で自己表現ができる。
- ・ダンス能力を向上させることにより、様々なダンスシーンに対して順応することができる。

バレエコース

自らの専門分野であるバレエに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・バレエの伝統を踏まえて、古典から現代まで様式に沿った表現ができる。
- ・音楽を身体で芸術的に表現するために、舞踊家として個性や協調性を発揮することができる。
- ・あらゆる踊りの基礎となるバレエの技術や知識をもとに、様々な作品の振付に幅広く対応することができる。

声優アニメソングコース

自らの専門分野である声優アニメソングに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・作品の背景を理解し、役柄の個性を表現することができる。
- ・音楽的知識や発声の基礎技術を高め、広く社会へ貢献することができる。

ダンスコース

自らの専門分野であるダンスに関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・多岐にわたるダンスの分野に触れることで、様々なジャンルに対応できるスキルを身に付け、表現することができる。
- ・ダンス構成や創作過程を学び、振付家（コレオグラファー）としても幅広く活動することができる。

ワールドミュージックコース

自らの専門分野の専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現することができる。
- ・各自の専門領域の音楽理論を理解し、演奏、作曲、即興に活用できる。
- ・世界のさまざまな音楽文化を理解し、共演者と協調しあいながらアンサンブルができる。

音楽教育コース

自らの専門分野である音楽教育に関する専門的知識や技能を用いて、自らの発想や思考を適切に表現し、他者に伝えることができる。
--

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・学習目標が明確な、わかりやすい音楽指導を行うことができる。・能動的学修に導くための創意工夫に富んだ教材を作成することができる。・文化振興、教育に根付く音楽の企画立案と運営を行うことができる。 |
|--|

音楽環境創造コース

自らの専門分野である音楽環境創造に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・プロフェッショナルな舞台人として活躍するために必要なコミュニケーション力、礼儀作法、社会性を身に付け、独創性のある舞台芸術を制作することができる。・舞台芸術は、プレーヤーとスタッフの共同作業によって成り立っていることを理解し、専門分野における最先端のテクノロジーを駆使して、作品発表において自己表現することができる。 |
|--|